

(様式 10)

事業報告書

<p>団体名</p>	<p>掛川ほんわかブッククラブ</p>
<p>事業名</p>	<p>高久書店ほんわか俳句大賞事業</p>
<p>事業種別 ※該当するものに○をつけてください。</p>	<p>1 子育て協働モデル分野 (1) 家庭の子育て力の向上 (2) 子育てと仕事の両立 (3) 地域(民間)が主体となった子育て支援 (4) その他の支援 ()</p> <p>2 地縁的団体分野</p>
<p>事業内容 (日時、場所、実施の内容を具体的に記載してください。)</p>	<p>1 作品募集の始まり 5/1</p>  <p>2 新聞の取材で宣伝 5/19</p> 

1 こどもたちへのアプローチ

・横須賀小学校 みんな真剣に俳句作り 7 / 1 3



・城東中学校 「えっと575は？」 7 / 1 6



・掛川特別支援の皆さんも参加



- ・掛川東高校 「これにあう季語は？」 9/12
掛川東高校では2年生全員が参加して作句



- ・天竜高校 横須賀高校書道部
「私たちが墨書します」
地域子ラブプロジェクト



2 投句開始 受付 9月15日締め切り

- 3 審査会の開催 10月
墨書・額飾り制作・表彰状づくり
- 4 写真展 11月～12月
入賞作品の墨書の展示会の開催(市内3図書館)
作品集発行



- 5 授賞式(市長賞・教育長賞・大会賞等)の開催
中央図書館地下会議室
市長・副市長・教育長・こども希望部長の来賓を
迎え、子ども政策課職員の補助で実施



事業成果
※事業計画に記載した目的・期待される効果がどの程度達成できたか記載してください。

- ・郷土の風景写真を見て、俳句を創作することで、郷土への愛着を育成することができた。
- ・同時に市民文化活動の発表の場を提供することができた。
- ・小学生が積極的に投稿してくれ、活動の広がりを感じた。
- ・幼児・小中高生が俳句を通して家族で郷土の良さを発見し、その繋がりを深める事ができた。

事業期間	令和4年8月15日～令和4年12月4日
実施計画検討会議開催日	令和4年8月20日
事業評価会議開催日	令和4年12月20日
今後の課題	<p>1 事業を実施して明確になった課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まだまだ地域にあって、この取り組みができない小中高等学校があるので、今後学校の理解を得ながら、しかし、教職員の負担にならない様に、子ども希望部こども政策課等の理解と援助、教育委員会の後押しを期待しながら進めていきたい。 <p>2 今後、自主的に同企画を運営する場合に課題になること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営資金が実質、冊子の売り上げによっているので、子どもの手に冊子を渡すために、資金面での工夫をする必要がある。また式典は市民のボランティアによっているので、これは今後拡大していきたい。
<p>課題解決の方策</p> <p>※上記課題を解決するために必要なことについて、事業評価会議の検討結果などを記載してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には写真集の売り上げによる活動を考えている。冊子については従来の手作り、受賞者限定とはなるが、資金的には継続の見通しを持っている。今後この事業を市民の文化活動の一つに発展させる意味でも、クラウドファンディング等の手法も考慮しながら考えていきたい。
<p>自主財源確保のための考え方</p> <p>※市の委託金がない場合の、当該企画に関する財源確保の検討結果を記載してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・写真集の売り上げ、会員からの寄付を中心に、財源に見合った規模で継続していく。
<p>今後の展開</p> <p>※上記を踏まえ、次年度以降、自主的に実施していくために必要な改善点や方策について、まとめてください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・この事業が掛川の子どもたちの文化の健全育成に大きく寄与していることを踏まえ、それを大人たちが写真集を購入し、投句することで支えることが出来ることを広く知らせたい。また、そうした個人的な趣味的営みが実は、社会的な営みに繋がっていることをも知っていただきたい。そのための工夫（写真展・俳句講座・俳句会等々）をコツコツ積み重ねていきたい。